

死刑と司法を考える～プリズンアカデミー・カフェ in 青猫書房

2025 年 10 月 19 日（日）13 時半～16 時

☆永山則夫の死刑執行と再審請求

☆お話： 鎌田慧さん

鎌田慧さん（ルポライター）

1938 年青森県生まれ。早稲田大学卒業後、新聞雑誌記者などを経てフリーのルポライター。『自動車絶望工場』『六か所村の記録』など著書多数。「さようなら原発」1000 万署名市民の会呼びかけ人。現在『鎌田慧セレクション—現代の記録—』全 12 巻刊行中

日時 2025 年 10 月 19 日(日)13 時半～16 時（受付 13 時）

会場 青猫書房(東京都北区赤羽 2-28-8) 03-3901-4080

アクセス JR「赤羽駅」北改札東口徒歩 10 分 <https://aoneko-shobou.jp/>

メトロ南北線「赤羽岩淵」駅出口 1 番徒歩 10 分

参加費 1000 円/25 歳までユース割、生活困窮の方、半額

主催・予約 いのちのギャラリー 090-9333-8807(市原)

永山則夫が処刑されて 28 年。肉体労働で暑さと飢えで自殺願望になっていた 19 歳の永山少年が事件を起こしたのは 53 年前の秋深まるころでした。

10 年前から毎年開催している永山則夫が残したものの in 青猫書房の第 1 回トークゲストは鎌田慧さんでした。鎌田さんは青森県弘前市出身。永山は弘前に隣接した板柳町で 5 歳から中学卒業まで暮らし、同郷人。永山の「無知の涙」の無念を理解し、稀有な才能と評価して作家としての活動を支援。「死刑廃止の日まで闘おう」と励まし続けました。

10 年前は永山との縁や新日本文学賞受賞作品「木橋」単行本刊行秘話など語ってくださいました。その後も機会があるごとに「僕は永山のことを忘れて欲しくないんです」と永山のことを語り、書いて、「木橋」の文庫版増刷にも尽力くださいました。

永山は、死刑確定後 4 年を経て獄中通信を外の支援者の協力で発刊。鎌田さんは最後となった通信の読者でした。今年 2 月、その通信の中に書かれた永山の訴えについて触れたコラムを書いています。「死刑囚と関わってきた安田好弘弁護士が「再審請求運動をしていればまだ存命していたかも、忸怩たる思いだ」というのを聞き、自分の不明を恥じた。」と。今回は、その獄中通信にも触れたお話をして頂く予定です。ご予約ください。

「第 2 の永山則夫を出さないでくれ！

俺は非人に落ちたが あなたがたは まだ人間だ」(永山則夫「無知の涙」より)
「少数抹殺は ファシズムを呼ぶ」(永山則夫)